

むくみやしびれ 病気のサインかも



設立メンバーは約20人で、医師は代表を務める心臓血管外科医の竹内一馬さん(39)や福岡、佐賀両大病院に勤務する糖尿病の専門医ら7人。看護師やフットサロン経営者、義肢装具士も加わっている。

竹内さんによると、糖尿病などの生活習慣病を患った人は、足の血行が悪くなり、むくんだり痛んだりといったトラブルを抱える傾向がある。

▲ 足の骨格標本やプロジェクターで映した靴合わせの写真を見ながら「ねっと」のメンバー(福岡市博多区で)

むくみやしびれなど、病気と関係ありそうな足のトラブルに早めに気づいてもらおうと、九州の医師や靴店主らが連携し、NPO法人「足もと健康サポートねっと」を結成した。疲れや靴が合わないためと思いきみ、受診が遅れるケースもあるためだ。10、11日には福岡市内で初のイベントを開く。(高梨忍)

健康 足元に注意

無料相談やミニレクチャー開催

イベントは10、11日午前10時～午後6時、福岡市博多区の博多阪急7階イベントホール「ミュージズ」で。「足のすべて2 days 歩こう!走ろう!キレイになろう!」と題し、医師や看護師による無料相談のほか、「足や足爪の手入れ法」「子どもや女性向けの靴の選び方」などをテーマに、15分程度のミニレクチャーを計25回開く。

ミニレクチャーは各回とも先着約60人。参加無料。問い合わせは「ねっと」事務局(092・401・5756、ホームページ<http://ashi.motokenko.com/>)へ。

トラブル早期発見 医師と靴店主ら連携

「重大な病気になるのを防ぐためには、トラブルの早期発見が必要」と、同市の長尾病院と那珂川病院にフットケア外来を開設。2年前から医療関係者や靴店などに声をかけ、ネットワークづくりに乗り出した。集まった仲間たちで勉強会や公開講座などを企画し、情報交換を重ね、7月

今春まで福岡市の福岡大病院で診療に当たってきた竹内さんは、糖尿病患者が足のトラブルを見落としたために、組織の一部が死んだ状態になる「壊疽」が起り、足を切断しなければならなくなるケースもみえた。

しかし、「靴が足に合わない」と靴を買い替えたり、「疲れているのだから」とフットサロンでマッサージを受けたりしてやり過ごしているうちに、症状が進行してしまうことが多いという。

に「ねっと」を発足させた。月に1回程度、手弁当で集まり、勉強会や打ち合わせを進めている。靴店やフットサロンの経営者は、様々な症例を学ぶことで、客に医療機関の受診を勧めたり、症状に合った靴を見立てたりできるようになる。医師は、適切な靴を提供する靴店を患者に紹介できる。

今後は市民や企業から賛同者を募り、会費収入を得て、イベント開催などの活動資金に充てる考えだ。メンバーで意見を出し合い、オリジナルの靴を開発、販売する構想もある。竹内さんは「メンバーが文字通り足並みをそろえて、患者のQOL(生活の質)を高め、足元から健康を支えていきたい」と話している。